# **■** NetApp

## クロスアカウント構成とクロスリージョン構成 Cloud Backup

NetApp June 08, 2022

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/cloud-manager-backup-restore/reference-backup-multi-account-aws.html on June 08, 2022. Always check docs.netapp.com for the latest.

## 目次

| クロスアカウント構成とクロスリージョン構成           | <br>1 |
|---------------------------------|-------|
| AWS でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定します  | <br>1 |
| Azure でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定する | <br>ć |

## クロスアカウント構成とクロスリージョン構成

これらのトピックでは、異なるクラウドプロバイダを使用する場合のクロスアカウント 構成用の Cloud Backup の設定方法について説明します。

- "AWS でマルチアカウントアクセス用に Cloud Backup を設定"
- "Azure でマルチアカウントアクセスに Cloud Backup を設定"

## AWS でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定します

Cloud Backup では、ソース Cloud Volumes ONTAP ボリュームとは別の AWS アカウントにバックアップファイルを作成できます。これらのアカウントは、 Cloud Manager Connector がインストールされているアカウントとは異なる場合があります。

これらの手順は、を実行している場合にのみ必要です "Amazon S3 への Cloud Volumes ONTAP データのバックアップ"。

この方法で設定を行うには、次の手順に従います。

## アカウント間に VPC ピアリングを設定します

- 1.2つ目のアカウントにログインし、ピアリング接続を作成します。
  - a. ローカル VPC を選択:2つ目のアカウントの VPC を選択します。
  - b. 別の VPC を選択:最初のアカウントのアカウント ID を入力します。
  - C. Cloud Manager Connector が実行されているリージョンを選択します。このテストセットアップでは、両方のアカウントが同じリージョンで実行されています。
  - d. VPC ID :最初のアカウントにログインし、アクセプタ VPC ID を入力します。Cloud Manager Connector の VPC ID です。



#### 成功ダイアログが表示されます。



#### ピアリング接続のステータスは、 Pending Acceptance と表示されます。



2. 最初のアカウントにログインし、ピアリング要求を承認します。





a. 「\*はい\*」をクリックします。



接続がアクティブと表示されます。また、「 CBS-multi-account 」と呼ばれるピアリング接続を識別するための Name タグも追加しました。



a. 2 つ目のアカウントのピアリング接続を更新し、ステータスが Active に変わったことを確認します。



両方のアカウントのルートテーブルにルートを追加します

1. VPC > サブネット > ルートテーブルに移動します。



2. [ルート] タブをクリックします。



3. \*ルートの編集 \*をクリックします。



- 4. [Add route\*] をクリックし、 [Target] ドロップダウンリストから [\* ピアリング接続 \*] を選択して、作成したピアリング接続を選択します。
  - a. デスティネーションで、もう一方のアカウントのサブネット CIDR を入力します。



b. [ルートの保存(Save Routes )]をクリックすると、[成功(Success )]ダイアログが



## Cloud Manager で 2 つ目の AWS アカウントのクレデンシャルを追加します

1. 2 つ目の AWS アカウントを追加します。例: Saran - XCP - Dev.



2. Discover Cloud Volumes ONTAP ページで、新しく追加したクレデンシャルを選択します。



3. 2 つ目のアカウントから検出する Cloud Volumes ONTAP システムを選択します。2 番目のアカウントに新しい Cloud Volumes ONTAP システムを導入することもできます。



2番目のアカウントの Cloud Volumes ONTAP システムが、別のアカウントで実行されている Cloud Manager に追加されます。



## もう一方の AWS アカウントでバックアップを有効にします

1. Cloud Manager で、最初のアカウントで実行されている Cloud Volumes ONTAP システムのバックアップを有効にし、2番目のアカウントをバックアップファイルの作成場所として選択します。



2. 次に、バックアップポリシーとバックアップするボリュームを選択し、 Cloud Backup は選択したアカウントで新しいバケットを作成しようとします。

ただし、 Cloud Volumes ONTAP システムへのバケットの追加は失敗します。これは、 Cloud Backup が インスタンスプロファイルを使用してバケットを追加するためで、 Cloud Manager インスタンスプロファイルが 2 番目のアカウントのリソースにアクセスできないためです。

3. Cloud Volumes ONTAP システムの作業環境 ID を取得します。



Cloud Backup は「 NetApp-backup- 」というプレフィックスを付けてすべてのバケットを作成し、作業環境 ID を含めます。たとえば「 87ULea10 」となります

4. EC2 ポータルで S3 に移動し、「87uLea10 」で終わる名前のバケットを検索すると、「NetAppbackup-vsa87uLea10 」と表示されるバケット名が表示されます。



5. バケットをクリックし、 [権限] タブをクリックして、 [ バケットポリシー ] セクションの **Edit** をクリックします。



6. 新しく作成したバケットのバケットポリシーを追加して、 Cloud Manager の AWS アカウントにアクセス できるようにしてから、変更を保存します。

```
"Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
      "Sid": "PublicRead",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::464262061435:root"
      },
      "Action": [
        "s3:ListBucket",
        "s3:GetBucketLocation",
        "s3:GetObject",
        "s3:PutObject",
        "s3:DeleteObject"
      1,
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::netapp-backup-vsa87uleai0",
        "arn:aws:s3:::netapp-backup-vsa87uleai0/*"
  1
}
```

「 aws 」: "aws : "arn : aws : 464262061435 : root 」ではアカウント 464262061435 のすべてのリソースにこのバケットへのアクセスを許可しています。特定のロールレベルに減らすには、特定のロールでポリシーを更新します。ロールを個別に追加する場合は、 occm ロールも追加する必要があります。追加しないと、 Cloud Backup UI でバックアップが更新されません。

例:"AWS" : "arn : aws : IAM : 464262061435 : role/CVO-instance-profileversion10-d8e-lamInstanceRole-IKJP1HC2E7R"

7. Cloud Volumes ONTAP システムでクラウドバックアップの有効化を再度実行して、成功することを確認します。

## Azure でマルチアカウントアクセスのバックアップを設定する

Cloud Backup では、ソース Cloud Volumes ONTAP ボリュームとは別の Azure アカウントにバックアップファイルを作成できます。これらのアカウントは、 Cloud Manager Connector がインストールされているアカウントとは異なる場合があります。

これらの手順は、を実行している場合にのみ必要です "Cloud Volumes ONTAP データの Azure BLOB ストレージへのバックアップ"。

この方法で設定を行うには、次の手順を実行します。

## アカウント間の VNet ピアリングを設定します

Cloud Manager で別のアカウントやリージョンの Cloud Volumes ONTAP システムを管理する場合は、 VNet ピアリングを設定する必要があります。ストレージアカウントの接続に VNet ピアリングは必要ありません。

- 1. Azure ポータルにログインし、ホームから仮想ネットワークを選択します。
- 2. サブスクリプション 1 として使用するサブスクリプションを選択し、ピアリングを設定する VNet 上でクリックします。



3. cbsnetwork を選択し、左パネルから peerings をクリックし、 \* Add \* をクリックします。



- 4. ピアリングページで次の情報を入力し、\*追加\*をクリックします。
  - 。このネットワークのピアリングリンク名:ピアリング接続を識別する任意の名前を指定できます。
  - 。リモート仮想ネットワークピアリングリンク名:リモート VNet を識別するための名前を入力します。
  - 。すべての選択をデフォルト値のままにします。
  - 。[ サブスクリプション ] で、サブスクリプション 2 を選択します。
  - 。仮想ネットワーク:ピアリングを設定するサブスクリプション 2 の仮想ネットワークを選択します。



5. サブスクリプション 2 VNet 内で同じ手順を実行し、サブスクリプション 1 のサブスクリプションおよび リモート VNet の詳細を指定します。



#### ピアリング設定が追加されます。



## ストレージアカウントのプライベートエンドポイントを作成します

次に、ストレージアカウント用のプライベートエンドポイントを作成する必要があります。この例では、サブスクリプション 1 でストレージアカウントが作成され、 Cloud Volumes ONTAP システムはサブスクリプション 2 で実行されています。



次の操作を実行するには、ネットワーク作成者の権限が必要です。

```
"id": "/subscriptions/d333af45-0d07-4154-
943dc25fbbce1b18/providers/Microsoft.Authorization/roleDefinitions/4d97b98
b-1d4f-4787-a291-c67834d212e7",
  "properties": {
    "roleName": "Network Contributor",
    "description": "Lets you manage networks, but not access to them.",
    "assignableScopes": [
      11 / 11
    ],
    "permissions": [
      {
        "actions": [
          "Microsoft.Authorization/*/read",
          "Microsoft.Insights/alertRules/*",
          "Microsoft.Network/*",
          "Microsoft.ResourceHealth/availabilityStatuses/read",
          "Microsoft.Resources/deployments/*",
          "Microsoft.Resources/subscriptions/resourceGroups/read",
          "Microsoft.Support/*"
        ],
        "notActions": [],
        "dataActions": [],
        "notDataActions": []
    ]
  }
}
```

1. ストレージアカウント > ネットワーク > プライベートエンドポイント接続に移動し、 \* + プライベートエンドポイント \* をクリックします。



- 2. Private Endpoint\_Basics\_page で、次の手順を実行します。
  - 。サブスクリプション 2 ( Cloud Manager Connector と Cloud Volumes ONTAP システムを導入する場所)とリソースグループを選択します。
  - エンドポイント名を入力します。
  - 。リージョンを選択します。



3. \_Resource\_page で ' ターゲットサブリソースとして \*blob \* を選択します



- 4. 設定ページで、次の操作を行います。
  - 。仮想ネットワークとサブネットを選択します。
  - 。[はい\*]ラジオボタンをクリックして、[プライベート DNS ゾーンと統合]を選択します。



5. [プライベート DNS ゾーン] リストで、正しいリージョンからプライベートゾーンが選択されていることを確認し、[\* レビュー + 作成 \*]をクリックします。



これで、ストレージアカウント(サブスクリプション 1 )は、サブスクリプション 2 で実行されている Cloud Volumes ONTAP システムにアクセスできます。

6. Cloud Volumes ONTAP システムでクラウドバックアップの有効化を再度実行して、成功することを確認します。

#### 著作権情報

Copyrightゥ2022 NetApp、Inc. All rights reserved.米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。 テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害(代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。) ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為(過失やその他を含む)のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。 ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じ る責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップ の特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によ特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について:政府による使用、複製、開示は、 DFARS 252.227-7103 ( 1988 年 10 月)および FAR 52-227-19 ( 1987 年 6 月)の Rights in Technical Data and Computer Software (技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利)条項の( c ) ( 1 )( ii )項、に規定された制限が適用されます。

#### 商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク http://www.netapp.com/TM は、NetApp、Inc.の商標です。 その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。